

第5回日本ジオパーク委員会 議事録

日時: 2009年7月10日(金) 10:00~16:00

場所: 経済産業省・別館10階 1012号会議室

出席者

委員長

尾池和夫 国際高等研究所 所長 (京都大学 前総長)

副委員長

町田 洋 日本第四紀学会 (東京都立大学 名誉教授)

委員 (五十音順)

伊藤和明 NPO 法人 防災情報機構 会長 (元 NHK 解説員)

加藤禎一 産業技術総合研究所地質調査総合センター 代表

小泉武栄 東京学芸大学 教授

鹿野久男 (財)国立公園協会 理事長

瀬古一郎 (社)全国地質調査業協会連合会 会長

高木秀雄 日本地質学会 (早稲田大学 教授)

中川和之 日本地震学会 (時事通信)

中田節也 日本火山学会 (東京大学地震研究所 教授)

松本 淳 日本地理学会 (首都大学東京 教授)

オブザーバ

外務省広報文化交流部国際文化協力室 課長補佐 渡邊 博

外務省広報文化交流部国際文化協力室 事務官 豊田友紀子

文部科学省国際統括官付 ユネスコ第3係長 岩下文香

文化庁文化財部記念物課 主任調査官 桂 雄三

農林水産省農村振興局農村政策部農村環境課 課長補佐 長田実也

農林水産省農村振興局農村政策部都市農村交流課事業係 岡庭 信幸

林野庁国有林野部経営企画課環境保護調整係 係長 高木 望

経済産業省産業技術環境局知的基盤課 課長 渡邊重信

経済産業省産業技術環境局知的基盤課課長補佐 永田邦博

観光庁観光地域振興部観光資源課 係長 松岡 良

環境省自然環境局国立公園課計画第一係 係長 岩浅有記

事務局

産業技術総合研究所 佃 栄吉

産業技術総合研究所 渡辺真人

産業技術総合研究所 濱崎聡志

産業技術総合研究所	吉川敏之
産業技術総合研究所	高橋裕平
産業技術総合研究所	飯村一清
産業技術総合研究所	中島 礼
産業技術総合研究所	玉生志郎
産業技術総合研究所	澤田結基

プレス 5 名

新日本海新聞、日本海新聞、日本海テレビ、神戸新聞、朝日新聞

配付資料

- 資料1 第4回日本ジオパーク委員会議事録（案）
- 資料2 世界ジオパークネットワークの審査状況
- 資料3 評価シート

10:00～

【事務局長挨拶】

昨年5月に第1回日本ジオパーク委員会が開催されて以降、7地域の日本ジオパークを認定し、そのうち3地域を世界ジオパークネットワーク（GGN）に推薦した。今年2月の日本ジオパーク記念式典では、日本ジオパークネットワーク（JGN）が設立を宣言し、5月に正式な活動を開始した。GGNに申請している3地域は、8月の現地審査を経て、同月下旬の中国での第3回ジオパーク国際シンポジウム会期中の審査委員会で決定される予定であることが説明された。

【委員長挨拶】

最近「ジオパーク」という言葉が広まってきており、新聞、雑誌でも紹介されてきている。日本学術会議による21世紀への提言の中でもジオパークのことが出されていることなどが話された。

【第4回委員会議事録確認】（資料1）

特に意見なく、承認された。

* 後日、農水省から出席者に関し訂正があった。

【世界ジオパーク委員会の審査状況報告】（資料2）

事務局より、8/22～25に中国山東省泰安市で「第3回ジオパーク活動の発展に関する国際シンポジウム」が開かれ、会期中の8/22に、GGNによって3地域の認定可否が決定される予定であると説明された。中国現地からの伝達方法を事務局で検討中である。

<質疑応答>

- ・ジオパークをもつ国は原則として1年に最大2カ所申請できる。
- ・当日の諸状況も勘案し、事務局で発表・連絡方法を検討してほしい。

【GGN申請候補地域のプレゼンテーション】（発表10分、質疑10分）

1) 室戸

テーマ「海と陸が出会い、新しい大地が会う最前線」／付加体形成過程が実証された世界初の場所／地震隆起による段丘／ジオサイト45カ所／QRコード利用の実証中（5カ国語）／主要ジオサイトの内容／ジオパーク推進協議会／普及推進活動／ガイドブック／国によるジオパーク調査（H19）／インフォメーションセンター（キラメッセ室戸鯨館）／シレスト室戸／運営委員会 などの説明。

<質疑応答>

- ・申請書や説明は昨年よりかなりわかりやすくなった。高知コアセンターはジオサイトの1つとするよりも、研究支援で入れればいいのか。 → 同センター保管のコアには室戸沖のメタンハイドレートが含まれており、室戸との関連が深いので、いずれ同センターも拠点の1つとしたい。
- ・拠点施設を拡大したらどうか。 → 鯨館のシアターホールをジオパークに活用しており、少年自然の家では資料館にパネルを展示している。コアセンターの保管試料も、同センターと少年自然の家の資料館に展示したい。
- ・ジオサイトが室戸岬に集中している印象を受けるが、他地域の整備状況はどうか。
→ 新しい地質時代の付加体であることが、室戸地域の売りである。従来の室戸岬にその他の地質学的な研究の進んでいる場所も加え、ジオパークで生態系などもアピールしていきたい。

- ・ ウェブサイトの整備状況 → 市のHPにウェブサイトはあり、今後、ソフト面を充実させたい。
- ・ QRコードによる説明看板の状況 → 15-16カ所設置済みで、予算補助も受けている。
- ・ 外国人対応 → QRコードが目玉。英語・韓国語での対応は地元の人で対応しているが、外国人の総合的な受け皿づくりはこれからである。
- ・ 地震や津波などの防災教育の計画 → 毎年消防訓練を行っている。

2) 秩父

テーマ「人間活動と地球ジオパーク」／世界ジオパークへの申請趣旨と経過／秩父地域を推進する理由（日本地質学発祥の地、秩父学検定などの観光ガイド取り組み）／多数のジオサイト／秩父まるとジオパーク／三波川帯、四万十帯、御荷鉾帯、秩父帯／推進協議会／東京に近い／ニューツーリズム／ジオツアー／秩父自然史博物館がコア施設／QRコードも活用予定 などの説明。

<質疑応答>

- ・ 秩父は、ジオパークから日本・世界の人に何を伝え、感じてほしいのかというメッセージをもっと出してほしい。 → 歴史・文化などを通じて秩父地域の生活を感じ共有してもらおう町づくりを目指している。人間活動と地球との関わりをアピールしたい。
- ・ ジオパークである以上、ジオ（地質）という売りをもっと明確にすべきで、今後の課題である。
→ 紀伊半島・四国との地質学的な違いを示せる。特に三波川帯については世界的な研究レベルであり、付加帯の浸食を実証できる場所であることなどを強調したい。
- ・ 多彩な地質が分布していることはわかる。市町村エリアとの関係は？
→ 秩父郡を構成する市町にわたる。秩父は日本のへそと言われる地質の重要地域なので、秩父全域でジオパークを展開したい。
- ・ 何を伝えたいのかを明確に伝えてほしい。単に地質の言葉で語ってもアピールしない。具体性を持たせれば今後良くなる。

3) 山陰海岸

テーマ「日本海形成に伴う多様な地形・地質・風土と人々の暮らし」／5つのサブテーマ／3県にわたる13のジオエリア／日本海形成に関わる多様な岩石／地磁気逆転期の玄武岩／ガイド養成講座・ジオブック（英語版も予定）／保護・保全活動／ジオパーク推進協議会／ボランティア育成／JR列車内のジオパーク教室／各県立博物館での学術活動／HP／外国語対応／積み上げた成果 などの説明。

<質疑応答>

- ・ 活動実績が上がり GGN 申請候補に近づいている。化石・鉱物などの保護保全計画はあるか。
→ 化石レプリカや岩壁のはぎ取りなどを計画中。鉱物については個人的な収集活動を特定の地域拠点に集約したい。
- ・ 全体像が広い。個々のジオサイトで全体像が見えるためにどう工夫しているか。
→ 各サイトが断片的だったので、全体像の中で各々のテーマがわかるように設定した。日本列島の形成過程については、統一した表と、位置図および説明図も作成予定である。地元の学術部会でも検討したい。
- ・ 鉄道の話（ジオ鉄）は、車窓から安心してゆっくりとジオサイトが見えるので面白い。
→ 山陰本線浜坂駅に鉄子の部屋を設けてパネルを展示。余部鉄橋記念館も建設予定である。
- ・ この地域は内陸直下型地震が多い。郷村断層など、現地サイトの説明をきちんとしてほしい。
→ 昨年の指摘後、わかりやすい解説版などを設定した。

- ・防災計画の行政界を超えた共有はあるか。 → 阪神大震災後に自主防災組織ができています。今後その力を高めていき、県を超えた調整も行いたい。

【審議】

- ・室戸と山陰は昨年より明らかにわかりやすくなった。今後はGGN申請に向けてさらに具体的にブラッシュアップするのが課題である。例えば、室戸のジオパーク活動の活発さは理解できたが、世界を目指すのであれば、付加体だけでなく他地域も取り込み、チャート・石灰岩などの地質も入れて多様性を出した方がいい。山陰がうまくいけば、複数県にわたってもできるという成功例になる。
- ・秩父は首都圏に近く、ジオパークの大きな可能性を秘めているが、プレゼンや申請書にジオの概念をもっと入れてほしい。例えば、地質学的歴史観をアピールするには、秩父は日本の地質学発祥の地であるだけでなく、その後の日本の地帯構造区分やテクトニクスなど地球歴史の研究の一中心となってきた変遷などを具体的に伝えることが大事である。
- ・日本ジオパークである山陰と室戸については、GGNに持っていかどうかを現地調査する。秩父についてはJGNの審査を兼ねて現地調査をする。
- ・今後、日本ジオパークを経て世界へ出すというルールを決めた方がいいのではないか。各地域には、手順を踏んでほしいとは伝えている。
- ・全般に継続的な活動が見えにくい。地元の重要な拠点である博物館などを通じて地元にもっと知ってもらうことが必要である。
- ・8月のGGN会議の結果を見てから、来年の方向性も検討したい。

昼食

12:50～

【JGN申請地域のプレゼンテーション】（発表10分、質疑10分）

1) 天草御所浦

テーマ「恐竜の島まるごとジオパーク」／恐竜化石の発見＝町おこし／希少生物／ジオサイト看板29
 ／主要ジオサイト（日本最大級肉食恐竜の歯、恐竜の足跡、アンモナイト館、白亜紀の壁、不整合）
 ／ジオツアー（化石採集、地史まるごとコース）／天草ジオパーク構想推進協議会／ジオパーク効果（助成金、体験型観光企画、学術的支援）／天草全島へ拡大しGGNを目指す などの説明。

<質疑応答>

- ・豊富な化石が売りだが、その保全と採集体験のバランスはどうか。
 → 業者の採石場で白亜系の壁が見られるのが大きな見所だが、一般人はガイドの同行がないと入れない。他のジオサイトも学芸員の同行が必要。一方、化石採取を許可された場所があるため、他の露頭の保護にもつながっている。露頭は叩けないが、転石採取は許可。化石は原則持ち帰れるが資料館による確認が条件で、重要化石はその際に登録してもらう。
- ・化石・地形の形成過程、例えば、地質学的になぜここにこのような島があるのかなど、地域性の特徴をジオとしてどう伝えているか。 → この島で化石が多産する理由を白亜紀資料館で説明してから現地へ行く。同資料館が起点である。日本列島形成とのリンクはまだである。
- ・ウェブサイトの整備状況 → 日本語のみだが白亜紀資料館のHPの中にある。
- ・不整合露頭での説明にダイナミックな地球の動きを含められるのではないかと。

→ 島の成り立ちについては、小中学校の教育にも組み入れている。修学旅行に来る高校生との交流も含めてさらに検討したい。

2) 阿蘇

テーマ「阿蘇火山の大地と人間生活」／1市7町村／立候補の背景（世界有数のカルデラ地形，神世を語る阿蘇神社と農耕祭事，豊富な観光資源）／世界文化遺産暫定登録にも申請中／DVDによる阿蘇火山の紹介（ジオサイト102カ所）／ジオツアー年間3万人／山上火口年間100万人／阿蘇カルデラツーリズム／推進協議会／教育普及／ガイド養成／国際対応／安全対策 などの説明。

<質疑応答>

- ・ 著名な観光地で多くのジオサイトがあるが，観光優先，安全二の次ではいけない（火災流，火山ガスなど）。多数の観光客への災害対策は，以前と比較して現在はどうか。
 - 1979年の火砕流事故を教訓に，阿蘇市長が会長の防災会議協議会は変わりつつあるが，観光と防災のせめぎ合いが現状である。火山ガス事故は平成9年以来起きていないが，火口への観光客は年間100万人にのぼるので，気を緩めずに火口周辺でのアナウンス等を継続していきたい。
- ・ 生きているジオサイトとしてはわかりやすいが，カルデラや火砕流台地のPRが弱い印象である。なぜ阿蘇カルデラがそこに出来たのかなどに力点をのいた方がいい。洞爺湖，島原など他の火山地域との違いも強調する必要がある。
 - カルデラや火砕流による地形とそこからの産物の利活用を主要にしたい。
- ・ カルデラの出来方はカルデラ内ではわからない。範囲設定，灰石の利用などのPRにも検討の余地がある。 → 灰石の利用（橋，建材，石棺）なども紹介していく。

3) 隠岐

テーマ「大陸から島々へ」／立候補理由（豊かな地質資源と離島の自然環境，エコツーリズム）／地理的背景（大陸縁辺→湖→海→島根半島先端）／地質（大陸地盤，アルカリ火山岩，火山の内部構造，島形成後1万年，黒曜石石器の原産地）／多様な植物／風待ち海進エコツーリズム大学／ガイドブック／日本語・英語マップ／多様な主体の参加と連携によるジオツーリズム推進 などの説明。

<質疑応答>

- ・ アクセスのたいへんさが逆に魅力的な要素で，高く評価している。一方，地質用語のケアレスミスが多いので，島根大学などに専門知識のフォローを依頼してほしい。
- ・ 日本列島形成の中での隠岐の位置づけが明確になると，独自性・価値がもっと高まる。
 - ガイドブックの改訂を予定している。
- ・ 植物にブナがないことも重要。大満寺山は植生の凝縮地点なので，ジオサイトに入れていい。
- ・ 今は島だがかつては大陸だった。島になった時期は植生も含めて重要である。黒曜石を島根に運搬したこともあり，その流通ルートについても他地域との差別化を図れるとよい。
- ・ 隠岐は大陸からの視点が必要で，山陰海岸との連携も視野に入れてはどうか。
 - 大山・隠岐国立公園，山陰海岸，石見銀山とのネットワークを検討している。
- ・ 事業計画に具体性があるのはよい。

4) 恐竜溪谷ふくい勝山

恐竜化石をメインテーマ／日本の恐竜化石産地の8割は勝山市／経産省近代化産業遺産／福井県立恐竜博物館（世界有数規模，37体の恐竜，10名の研究者，入館者年間40万人）／白亜紀前期の恐竜／硬

岩層からの発掘技術／地質遺産と人々の暮らしの関わり／勝山市ジオパーク推進協議会と恐竜博物館
／ジオパークの活用（化石発掘体験，スキージャム勝山，ゆめおーれ勝山） などの説明。

<質疑応答>

- ・恐竜は子供たちの関心が大きく魅力的だが，勝山で恐竜化石が出てくるプロセスをどう伝えるのか。
恐竜全般に関するバックグラウンドを持った専門家はいるのか。
→ 古生物・地質学の学芸員がおり，展示・研究もきちんと行っている。
- ・恐竜産出層である手取層群や恐竜の時代に大陸縁辺にあったときの話（恐竜の時代になぜこの福井にいたのか）がなかった。地形図・地質図などを十分に示してほしい。
- ・恐竜の絶滅がその後のほ乳類や人類の出現につながっている。恐竜と人類のかかわりを子供たちに考えさせる示唆をしてほしい。
- ・一般の人にもわかる説明をしてほしい。 → 子供にわかりやすい展示で教育普及活動もしている。
- ・わからないことはわからない，あとは君たちが調べなさいということ子供たちに伝えるのも大事。
- ・ユニークな恐竜グッズの開発は？ → むいぐるみ・菓子・恐竜Tシャツ・骨格模型・解説書など。

5) 白滝黒曜石遺跡

テーマ「自然と文化の融合」／国内最大級の黒曜石原産地／旧石器時代の石器製造所（2.5～1万年前）
／黒曜石形成の火山活動（220万年前の流紋岩ドーム群）／黒曜石を利用してきた人類／推進協議会
／新鮮で良質な黒曜石の完全露出／氷河時代の生態系／ジオツアー（沢や道端に黒曜石片を多産）
／白滝黒曜石ミュージアム（H23予定）／火山・岩石・考古・物質の総合学習教材 などの説明。

<質疑応答>

- ・黒曜石が多産する事実だけでなく，地質学的になぜそこにできたのか，また，氷河やマンモスとの関連も説明がほしい。 → 引張の広域応力場にあると火山活動との関係で黒曜石ができるらしい。
- ・今後のガイド養成・拠点の構想 → 地元の人からガイド募集中で，1-2年を目処に養成したい。
- ・カルデラの存在も最近明らかとなり，研究が進行中の面白い場所。歩きながら観察や採取できるのも魅力的である。黒曜石の現代的な利用（企業化・商品化）についても含めるとよい。
- ・黒曜石の石器の産地の科学的な根拠は？ 人類史と地球科学という視点から重要である。
→ 化学組成の違いからわかる。白滝産黒曜石はサハリン・シベリアから東北までの遺跡で出ており，今後もその広がりを調べたい。
- ・黒曜石で売り出す以上，黒曜石（関連するパーライト・松脂岩なども含め）の知識を集約し，黒曜石情報発信の中心地になってほしい。
- ・ヒグマなどのリスク管理 → 地元やクマ研の専門家などと連携を図っていく。

【総合審議】

各委員からの申請書に対するコメントおよび評点を参考にしながら議論が行われた。

- ・前回からの改善点を現地調査の際に見ておくことが必要。地元をエンカレッジする観点でやる。現地審査に行って，それで評価が上がるのならそれは良いことだ。
- ・ポイントは，科学的知識を次の世代に伝える能力をもった土地であるかどうか。例えば，ジオパークをきっかけに専門家を採用した地域もある。
- ・2年目に入ったので委員会でもきちんとフォローアップしたい。申請地域には達成目標を書いてもらい自己評価を事務局に出してもらい，また数年に1度は委員会が現地に行く，などの方法もあり得る。JGNも，人や予算の問題を含め，自分たちの活動としてどう強化していくかだ。

- ・地質学的な根拠を説明できることが重要で、それがジオの普及につながる。しかし、素材に中心がいつてしまい、背景にある広いジオが見えにくくなっている傾向があることを地元も意識されたい。
- ・すでに国立公園として定着している地域とそうでない地域があり、後者はジオツアーの立ち上げからやる必要がある。頑張れば可能性のある地域に対しては、認定を一旦見送ってから伸ばすのか、認定してから伸ばすのかむずかしいところ。
- ・日本ジオパーク認定については、秩父も含めて議論をおこなう。現地審査は全地域について行う。
- ・白滝は発展途上にあり、さらなる準備が必要。隠岐と白滝は第三紀カルデラで共通しているが、これらが最近相次いで見つかっている点に注目すれば面白い。天草と勝山の共通点は中生代層で、勝山は特に恐竜だが、世界的に見れば必ずしも傑出しているわけではない。
- ・恐竜で有名な勝山はすでに多くの人が訪れており、今さらジオパークでもあるまいとの議論もある。「ジオパーク」としてふさわしいか、従来の観光の延長ではないかどうかの判定も必要。
- ・勝山は博物館が中心となっているため活動が限定されている印象を持つ。現地で足跡の保存など地域との連携が深まればジオパークになる。9月の委員会までの成長の可能性を見極める必要がある。
- ・海外では、ジオパークが観光地化され、本来のジオの精神が薄れている国、地域もある。人形が売られるだけとかではいけないだろう。
- ・自治体を中心になる場合、熱心な首長が交代した後どうなるかが懸念されるので、熱意を持続的に刺激する必要がある。山陰は、各首長が自身で正確にプレゼンできるように勉強している良い例である。勝山は市と他機関との連携が不十分な印象であり、現地審査ではそのことをポジティブに伝え、良いジオパークになってほしい。
- ・追試もあり得るとして全体の採点結果を公開してはどうか。この委員会での評価には透明性をもたせるべきだ。
- ・評価表では、ジオサイトの価値に対する評点が低い。項目設定も細かい。今後改善が必要。

このあと現地調査の日程について検討が行われた。

次回委員会

第6回委員会 9/24 13:00～

その他

- ・現地審査のポイントをまとめてはどうか。 → コメント集に追加があれば願います。
- ・糸魚川がJGN大会を秋に実施したいと希望している。9月の岡山の地質学会でのジオパークWSでも活動報告をしてもらおう予定である。
- ・GGNによる現地審査の状況は、事務局同行者から速報で報告したい。
- ・地理学会でも秋にジオパークのシンポジウムを開く。地学雑誌でも特集組みたい。

16:00 終了